

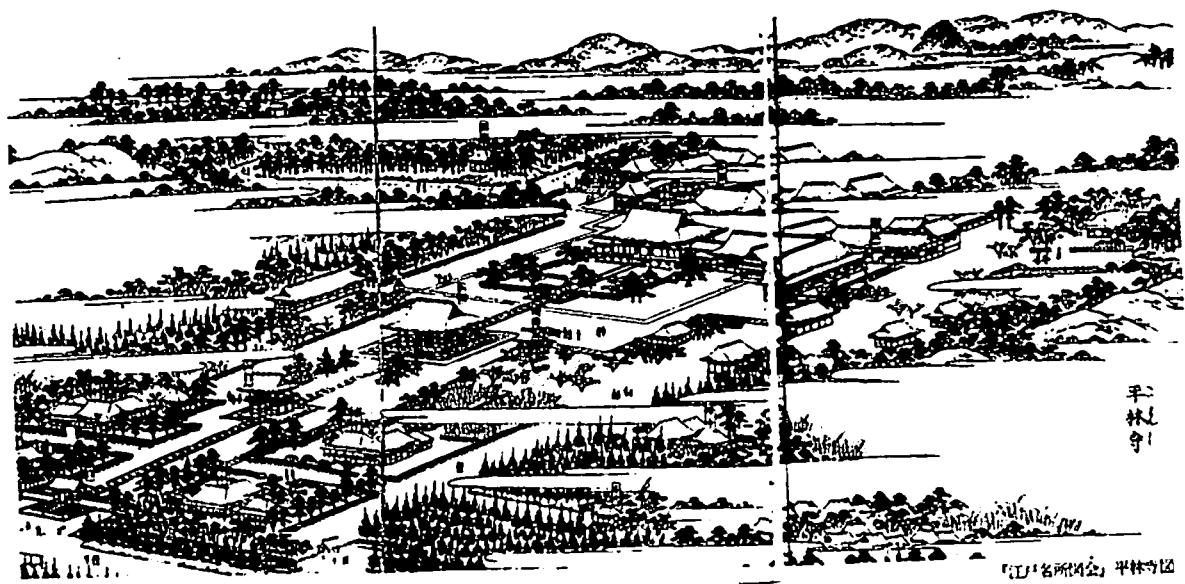
平成十五年十一月十六日（日曜日）

第三二二回 史跡めぐり

武藏野の面影を残す

野火止用水と古刹平林寺

#越谷市郷土歴史研究会



第三二二回 中古跡めぐり

武藏野の一面影を残す

野火止用水と古刹平林寺

日 時 平成十五年十一月十六日 日曜日 午前八時四十五分

集合 場所 JR南越谷駅前

コース 南越谷駅 → [武藏野線] → 新座駅 → 野火止公園 → 野火止緑道 → 野火止緑地公園 → 野火止用水 → 平林寺掘入口 →

平林寺築堤 → 新座総合体育馆 → 本多緑道 → 野火止史跡公園 → 平林寺 → 緑地総合公園 → 新座駅 → 南越谷駅

(解散)

参 加 費 二千円 [入山料・交通費・資料代・保険代を含む]
昼 食 各自持参
案 内 者 理事 古澤 孝

野火止用水の歴史

徳川家康が江戸城へ入府後50年程たち、江戸の人口増による上水の不足がおこり、1653年〔承応2〕幕府は多摩川から水を引く玉川上水を掘ることを許しました。

総奉行は老中松平伊豆守信綱、水道奉行は関東郡代伊奈半十郎、多摩郡羽村〔東京都下羽村市〕名主玉川庄右衛門・清右衛門兄弟がこれを請け負いました。

難工事になり、信綱は家臣の安松金右衛門・小島助左衛門に補佐を命じ工事を続行させ、1654年〔承応3〕完成しました。

信綱は、その功績により関東ローム層の乾燥した台地のため、生活用水にも難波していた領内の野火止に玉川上水を分水を許され、1655年〔承応4〕に野火止用水を開削しました。

工事担当を安松金右衛門に命じ、費用は三千両を要したといわれています。

多摩郡小川村〔小平市〕から掘り起こし、野火止台地を経て新河岸川に至る全長25kmにも及ぶ用水路です。

用水の分水割合は、玉川上水7分・野火止用水3分と言われ、主として飲料水や生活用水に使われました。のちに田用水としても利用されるようになり、豊かな水を得た農民たちは、この用水に深く感謝し、「伊豆殿堀」とも唱えました。以来300年の永きにわたり、野火止台地と人々の心を、その清らかな流れで潤してきました。

ところが、1949年〔昭和24年〕頃から生活様式が変わり出し、排水が用水に入つて汚染が始まり、さらに宅地化が進み、飲料水や生活用水としての利用が問題となり、1964年〔昭和39年〕に関東地区が、かんばつに見舞われ、東京が水不足になり野火止用水への分水が中止となりました。



高崎藩の陣屋(屋敷)に引水するために築かれた陣屋堀の築堤。
断面から堤の築き方がわかります。



平林寺堀の築堤



松平家の菩提寺である平林寺にそそぐ支流、平林寺堀。

この付近は土地が低いため堤を築いて水を引いています。

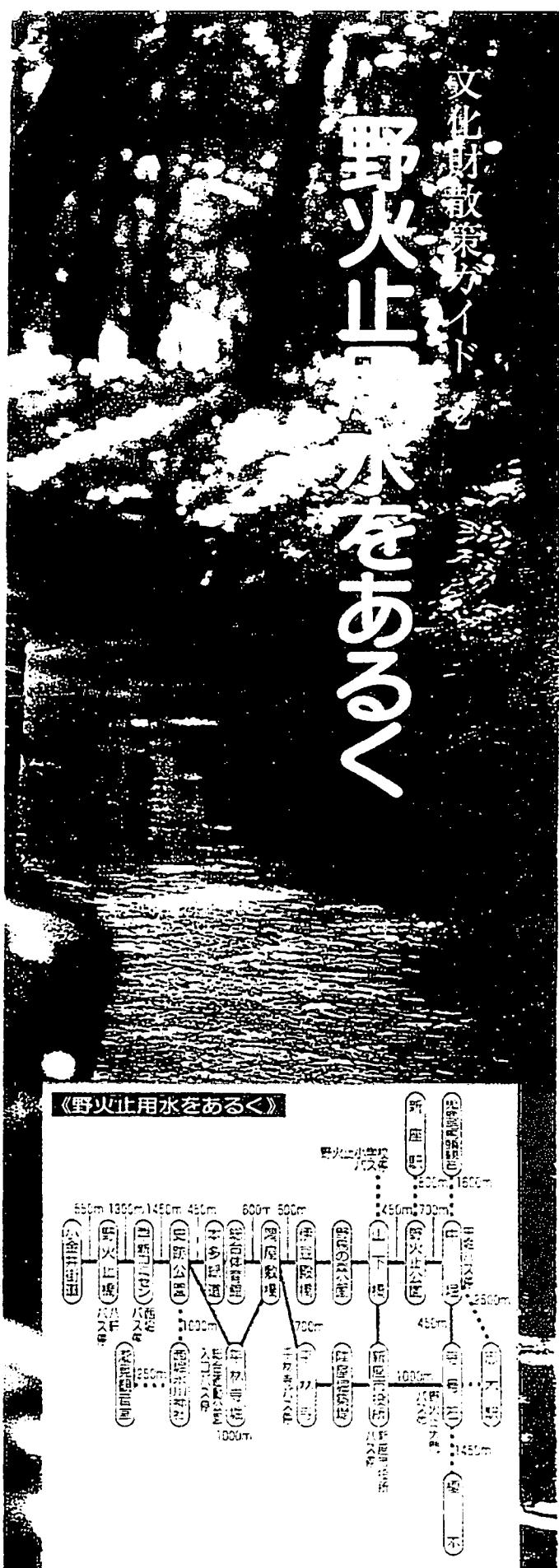
9 KM

5 KM

昭和30年代の野火止用水風景



、身近なところで、私たちの先祖の生活や知恵を大切なものです。
よごしたり、管理している方に迷惑をかけないよ
ましょ。





緑さわやか野火止緑地



桜並木の本多緑地



整備された野火止用水



関東の名刹、平林寺は臨済宗妙心寺派の神寺。
寛文3年に岩場から移されま
した。

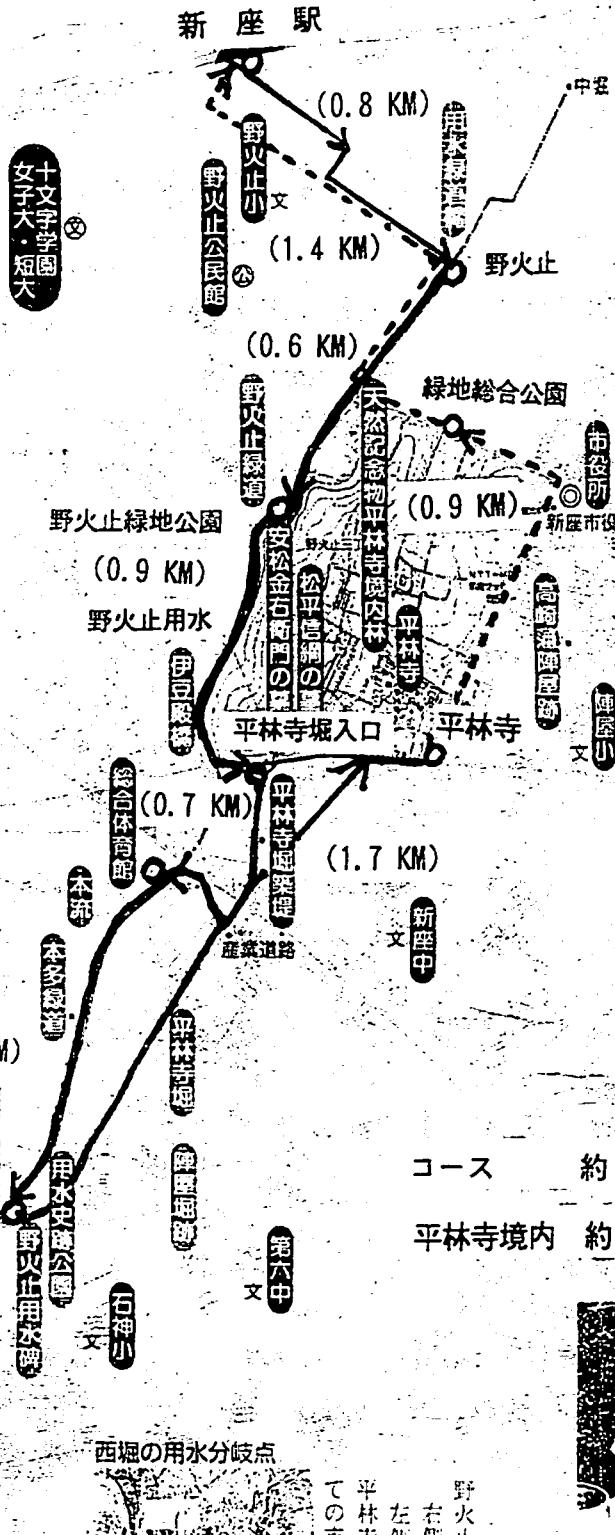
寺域は約13万坪で、山門や仏
殿などの建造物群は県指定の
文化財です。

境内林は国の天然記念物に指
定され保護されています。

広大な平林寺の森と野火止用
水が一体となっている緑道。
自然観察や野鳥観察が出来る
ところで、用水も昔のままの
状態が多いところです。

春になると桜花が色をそえてくれる本多紹道。野火止屋水も、昔ながらの版築の工法で築かれているのがわかります。

野次止用水本流の幅員は、だいたい水路敷が二間(3・6m)。左右の土揚敷は各一間(1・8m)です。



野火止用水が分歧する場所。

右側は支流の吉野寺堀

左側は 聰火止用の本道

平林寺塚の石段道下に、かつての支流、陣屋塚の跡です。

コース 約
平林寺境内 約

平林寺　金鳳山平林禪寺・臨濟宗妙心寺派別格本山

およそ13万坪という広大な境内は、武藏野の植物相をよく残し、

国指定の天然記念物「平林寺境内林」として保護策が取られているほどである。

平林寺は南北朝時代永和元年〔1375〕太田備中守により、鎌倉建長寺の住職石室善政禅師を開山に迎えて現岩槻市平林寺に創建。岩付太田氏の外護をうけて伽藍も整備されたが、その後戦火により衰微し、天正19年〔1591〕由緒を知った徳川家康は寺領50石を寄進し、翌年駿河の鉄山宗鉢禪師を招いて再興した。

幕府の老中で川越藩主となつた松平信綱は、川越と江戸との中間の野火止に平林寺を移そうとした。

信綱は幕臣大河内氏の出だが、徳川家の傍系の長沢松平氏を継いだ叔父の養子となり、後に別家して大河内松平家を興し、大河内家の靈廟だった平林寺を祖廟としていた。

信綱の没後、寛文3年〔1663〕子輝綱の代に移建が成就。これに先立ち承応4年〔1655〕信綱は玉川上水を完成させて野火止用水を分水した関係で、寺の中にも縦横に水を引いている。

主要伽藍が一直線に並ぶ禅宗様式の惣門から中門は、慶応年間の火災から免れたもので、山門は岩槻から移築したと伝えられる。



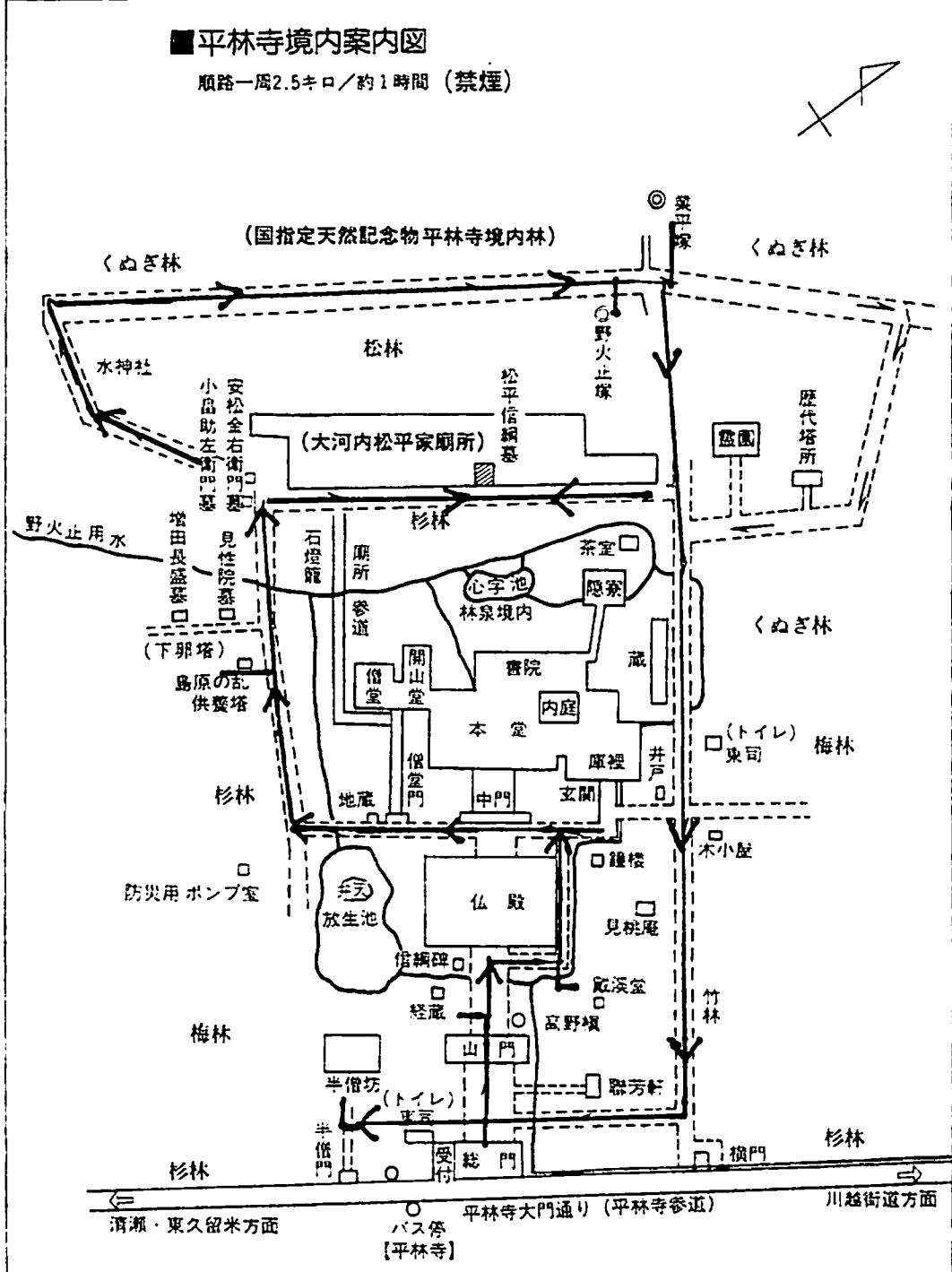
参道に立つ総門



石室善政禅師木像

■平林寺境内案内図

順路一周2.5キロ／約1時間（禁煙）

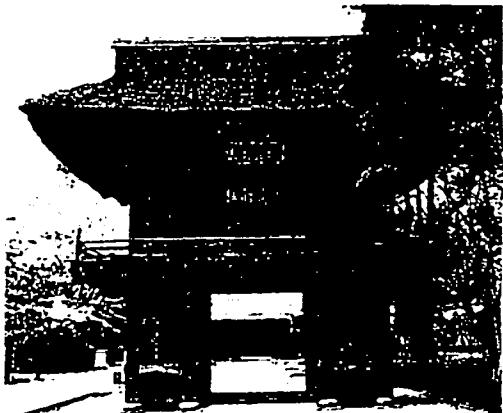




「凌霄閣」の扁額



山門に安置される釋迦三尊仏



平林寺の東岳 山門

総門から一直線に並ぶ禅宗様式の伽藍は、反り上がった屋根、柱間の組物、花頭窓など曲線を多く用いてあり、色彩は全体に少なく、外觀はしぶいが美しい。総門・山門・仏殿・中門は県の指定文化財になつております。

総門

茅葺きの切り妻造り

京都詩仙堂の石川丈山によつて揮毫された「金鳳山」の山号額が掲つてゐる。

門前の左右の石灯籠は松平信綱の奉納。

山門

茅葺きの重層入母屋造り

石川丈山の筆の扁額「凌霄閣」を掲つてゐる。

樓上棧道の両側には花頭窓が施し、内部には松平信綱によつて寄進された駕廻・文殊・普賢の三尊仏と十六羅漢像を安置してゐる。

寛文4年(1664)に若狭平林寺の山門を移築後に補修したもので、350年以上の風雨に耐えてゐる。

山門の右側に樹齢600年を数える高野楨がある。

平林寺

唐様の建物で間口六間、奥行五間半、茅葺きの単層入母屋造り。

正面は棟戸で花頭添を左右・東西に配し、質素で重厚な造りである。

脇居には「無形元淑謹」の扁額が掲っている。

本尊は釈迦如来坐像で阿難尊者と迦葉尊者が両脇侍として安置されている。

七本骨三つ角

三蝶の内十六葉菊

「平林禅寺」の寺号額

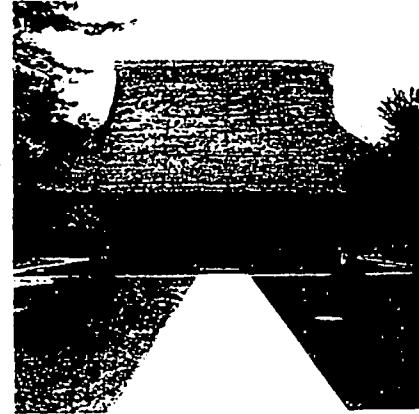
平林寺



参道から望む本堂入母屋の美



仏殿の釈迦如来坐像と迦葉尊者(右)、阿難尊者(左)



森蔵なる道場 仏殿

本堂

茅葺きの切り妻造りの四脚門である。

中門

本堂

庫裡とともに慶応3年〔一八六七〕に焼失、明治13年〔一八八〇〕の再建。

正面に石川丈山筆の「平林禅寺」の寺号額が掲っている。

釈迦如来坐像・達磨大師坐像・大権苦薩倚像が祀られ、戸張の家紋は

松平伊豆守信綱の家紋「三蝶の内十六葉菊」で別名「伊豆蝶」と呼ばれている。

開山堂

石室善玖禪師ほか、歴代住持の位牌を安置しているといふ。

又、松平信綱の位牌や大河内松平一族の位牌も安置している。

破拂寺方丈

天正18年の岩槻落城の時に戦火をのがれ、建物は新しいが、野火止移転の際には、その先駆けを行った塔頭。

妙経寺

二間四方に外縁を廻らした宝形造り。

糸原圓應老師の筆による「経蔵」の扁額が掲っている。

戴深堂

茅葺き宝形造り。

明國の僧、独立性易の念持仏の觀音像と独立性易像を安置している。

默雲禪師の筆による「戴深堂」の扁額が掲っている。

金剛塔

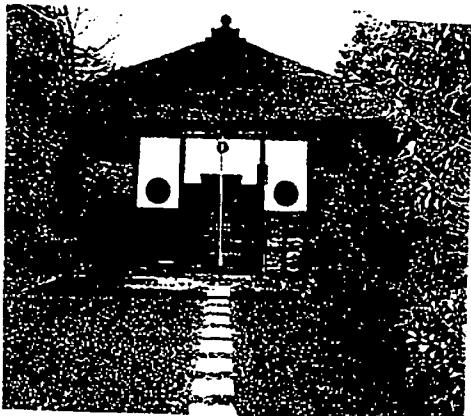
銅板葺きの入母屋造り。

享保7年〔1722〕に焼失、その後幾度か再建されて、現在のものは大休禪師の代に再建されたもの。

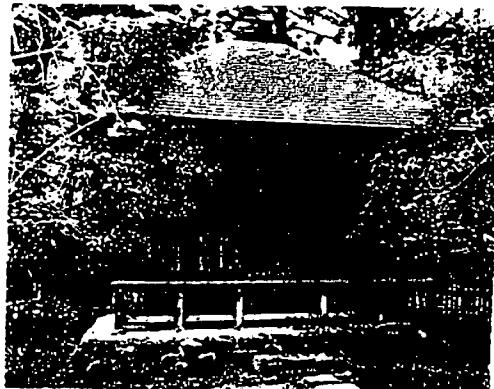
梵鐘は、寛延3年〔1750〕東巖禪師により鑄造された古鐘である。



鐘楼



戴深堂



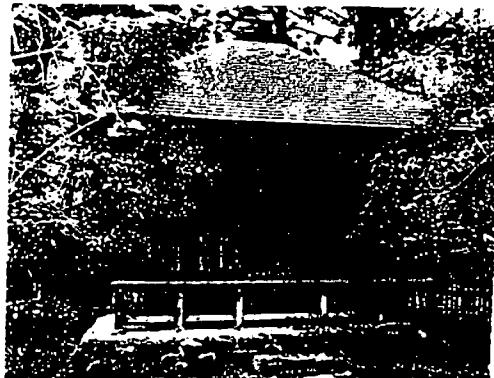
経蔵



鐘



鐘



経蔵



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



鐘



蓮華堂の日本通志

大休禪師が明治37年〔1904〕に近隣の法類及び大河内家などからの要請により、開いた。前門には大休禪師の筆による「蓮佛場」の額が掲っている。



蓮林館

日常生活時間割

午前三時	朝課 (朝のお勤め)
四時半	作務 (坐禅・参禅・禪問答)
七時半	作務 (勞働作務)
九時	*この時間は日によって 作務 (化儀) 提唱 (禪苦の講義) または托鉢 (化儀に御飯を供えるお勤め)
一一時	作務 (坐禅・参禅)
午後一時	作務 (夕方のお勤め)
三時	晚課 (菜石) (夕食 茄飯・一汁一菜)
五時	香鑑 (入相の達)
六時	坐禅・参禅 (消灯)
一〇時	夜坐 (消灯後 樹下石上にて坐禅) その後就寝

*大抵心とたるゝ座室にて終日坐禅せん
の日々となる



名勝 林泉境内



桜樹に囲まれる半僧坊

半僧坊 感心の心臓

唐破風をつけた入母屋造り。

半僧坊は縁起をたどると、静岡県引佐町にある臨済宗方広寺の鎮守、半僧坊大権現が源となる。明治二十三年〔一八九〇〕鎌倉建長寺の守護神として分祀された半僧坊は、明治二十七年、一九世玉圓禪師の代に平林寺に勧請された。

林泉境内

書院奥にあり、約千坪の広さを有する池泉回遊式の庭園である。

上方は枯山水の石組で、築山を形成し、下方は心字池を配し、背景となる武藏野の樹林をたくみに取り入れ、借景として作庭している。池泉は遊歩探勝できるように設計されていて、右側方から眺望すると淡路島の形を取り入れ、作庭時の意図など、自然の凝縮がある。

この庭園は、徳川中期の作と伝えられる。県の名勝に指定。〔禪修行の場であり、拜観は出来ない〕



絶対なる開山堂



松平伊豆守信綱像

関東の天領を支配した幕府の下層家臣団の一人、羽生領の代官大河内久綱の長男として、慶長 [1596] に生まれた。

大河内家は祖父秀綱が家督を継いで徳川家康に仕えたのち、幕府の代官頭伊奈家の家老を務めた家柄である。久綱の弟である正綱は、家康の命により徳川氏の傍系一門「長沢松平」氏を継ぎ松平姓を名乗り、家康に仕えて幕府の勘定頭に進み幕府の財政を担当、寛永二年 [1625] には相模国甘繩二万一千百石の城主となつた。

信綱は、この叔父である正綱の養子となり、長沢松平氏を継いだ。家光附きの小姓となり、伊豆守から寛永四年一万石の大名に列し、老中へと進み、武藏国忍三万石から正保四年 [1647] には川越七万五千石の城主となつた。

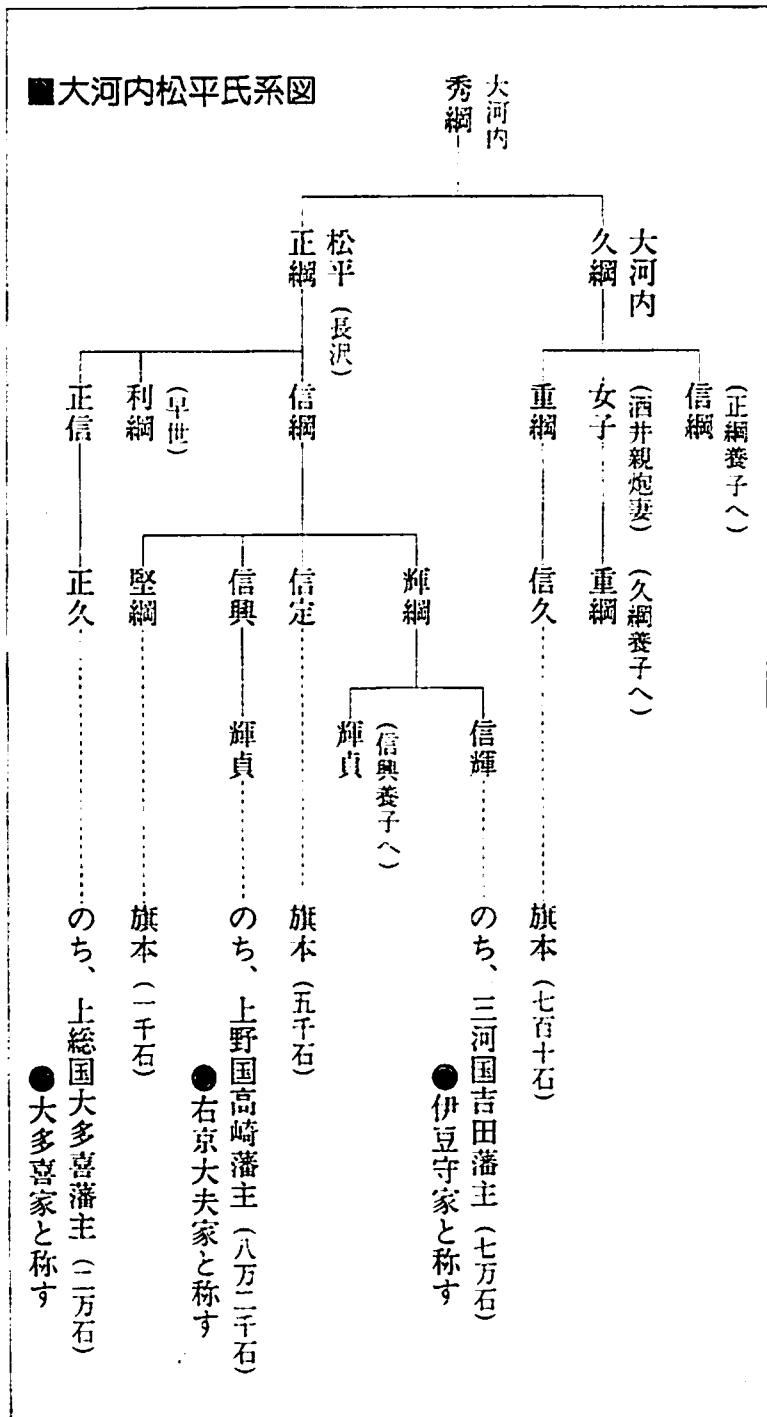
元和六年 [1620] 養父正綱に実子正信が生まれたので松平家から別に家を興し、「大河内松平」氏を名乗つた。

平林寺が大河内氏により葬送の地となつたのは、文禄四年 [1595] に秀綱の祖母である寿参尼が死去し、岩槻の平林寺に埋葬されたのが初めである。

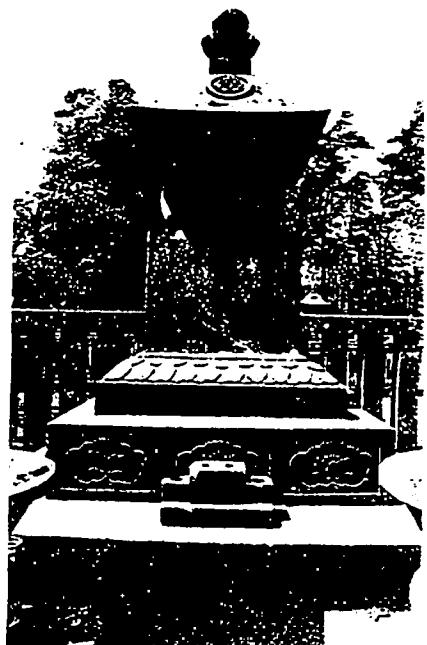
その後、祖父秀綱、実父久綱、養父正綱がいずれも平林寺に葬られた。

また相前後して秀綱・久綱・信綱などの子女も平林寺に葬られているので大河内松平氏の廟所となつたのである。

■大河内松平氏系図



大河内松平家の廟所



松平伊豆守信綱の墓



坐禅燈籠



手前・大多喜家歴代、右側・伊豆守家歴代の墓



大河内松平家の廟所

五輪塔と石燈籠が建ち並ぶ、松平伊豆守信綱をはじめとする大河内松平歴代の廟所で、約三千坪を有している。

大河内松平家は信綱のあと、次の三家に分かれた。

三河国吉田藩〔豊橋〕七万石の藩主となる伊豆守家。

輝綱—信輝—信祝—信復—信礼—信明—信順—信宝—信璋—信古—信好—正敏

上野国高崎藩八万二千石の藩主となる右京大夫家。

信興—輝貞—輝規—輝高—輝和—輝延—輝承—輝徳—輝充—輝曉—輝声—輝耕

上総国大多喜藩二万七千石の藩主となる大多喜家。

正信—正久—正貞—正温—正升—正路—正敬—正義—正和—正質—正倫

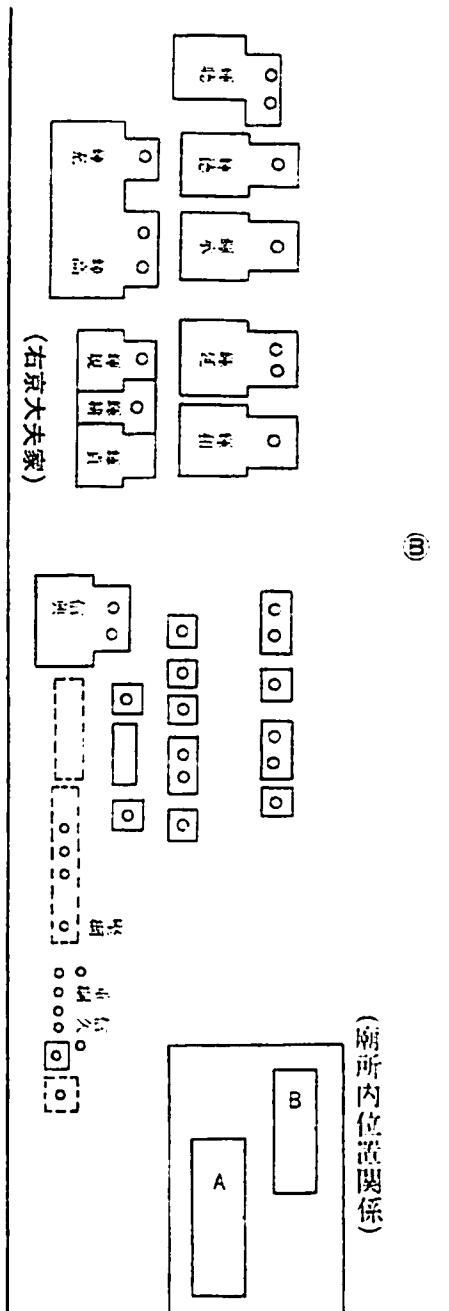
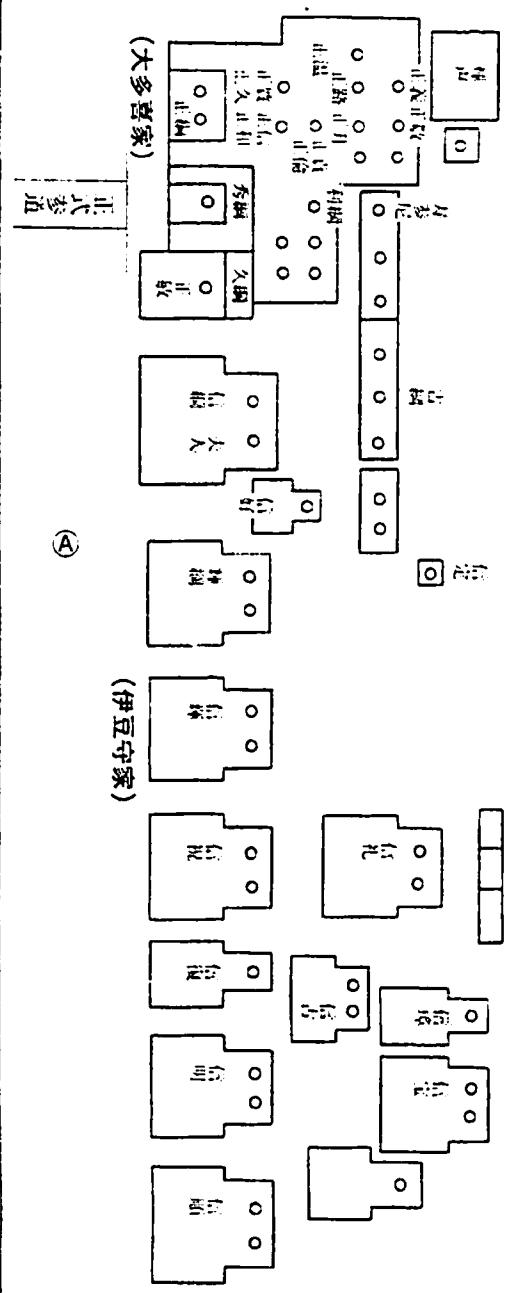
いずれも平林寺を歴代藩主の廟所としていた。」この三家は明治元年に、信綱以来の松平姓を改め、旧姓の大河内姓に復した。「のちに子爵」

信綱の墓は地輪正面に「河越侍従松平伊豆守信綱 松林院殿乾徳全梁大居士
寛文二壬寅年三月十六日」と刻まれている。

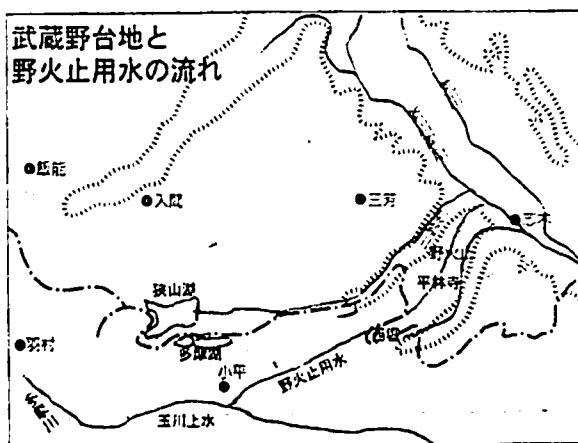
「知恵伊豆の墓に俳句が詣りけり」と高浜虚子が詠じたのは、この五輪塔。

一寺に一大名の墓がこれだけ残っているのは、全国にもあまり例がない、墓前に配された坐禅燈籠が數十と並ぶさまは、あたかも主君に仕える家臣のように見え、実に壯觀である。

■大河内松平家廟所墓石配置図



野火止用水と平林寺堀



仏殿脇を流れる野火止用水

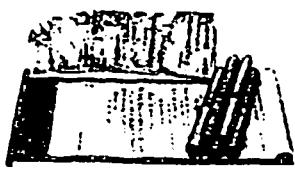


用水の流れる内庭

江戸にとって大切な玉川上水を「江戸七分川越三分」と言われるよう、一大名である川越藩領に分水された野火止用水は、玉川上水の最古かつ最大の分水であり、幕府直轄地以外に引かれ利用された唯一のものである。支流は「北野・菅沢堀」「平林寺堀」「陸屋堀」の三流あり、「西堀」の用水分岐点で左側は本流、右側が支流の平林寺堀になり、平林寺門前にあつた高崎藩の野火止陣屋に引水されていたのが陣屋堀である。

平林寺の境内では、用水の流れる内庭、仏殿脇で見られる。

野火止開発関係資料（県指定古文書）



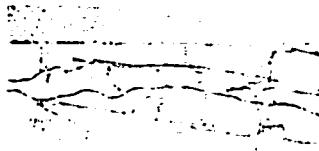
野火止開発古文書は、寛文元年（1661）の松代町と牛久町付近で、開発当時の野火止村の敷地区分や松平家の用数を始め、佐治の家臣などの用数が記されています。

川越藩の野火止開発における根本資料です。

平林寺は岩槻時代に幕府から朱印地を貰えられ、寺領を安堵されていたが、寛文二年（1662）に岩槻から野火止に移転してからも安堵され、徳川家綱から岩槻の寺領の替地として新座郡西堀村と西屋敷の分、合わせて五十石を雜田安堵された。

これにより、野火止用水の上流域にあたる新田開発村の西堀村と西屋敷の土地は平林寺の寺領として支配された。

野火止用水古絵図（市指定古文書）



野火止用水の流域図で、用水の利用状態などを把握できます。

松画面には、玉川上水の放入口から新河岸川までの間にいたる本流や支流関係、道路や橋の状況、船し塙・伏越・水車場などが描かれています。

野火止用水碑



昭和19年2月、候時中にもかかわらず、第二回の野火止用なる文化的な名前を認めて、その御水を定めた記念碑です。

県は3月31日に野火止用水を「埼玉県指定史跡」として文化財に指定しました。

石碑は現在、西堀の山に安置しています。

武藏野の風景 - 境内林

武藏野といえば平林寺とまで言われるほど、その名残を色濃く残している境内林。

国木田猪歩の名作「武藏野」の画影があり、田山花袋が「武藏野の昔の匂いを嗅いだ」とあるには野火止の平林寺付近が好いね……と書いた詩情あふれる武藏野。国指定の天然記念物である。

地名の発祥である「野火止塚」・在原業平をしのぶ「業平塚」などがあり、古くから武藏野の古歌・詩材になって、多くの文学者たちを魅了し、人々が訪ねたところである。

境内林で見られる樹木

本堂の周辺はスギ・ヒノキが主体とする針葉樹が取り囲み、北方から西方に接して赤松林が広がる。その外側をコナラ・クヌギ・エゴノキ・イヌシテを主体とする落葉広葉樹林がとりまき、林床にはアズマネザサやクマザサが環境の変化に応じて優占している。

イヌシテ・ハンノキ・コナラ・クヌギ・シラカシ・アカマツ・クロマツ・ケヤキ・エノキ・クリ・ムラサキシキブ・ヒノキ・ヤマハギ・カラタチ・マンサク・スタジイ・イヌガヤ・コノテガシワ・コブシ・シナノキ・ヤマザクラ・ヤマブキ・イロハモミジ・アカシテ・ムクノキ・モチノキ・モミ・ヌルテ・クマシテ・マコミ・モクレン・ウメ・クロモジ・ホオノキ・クワ・ヒゴノキなどが見ることが出来る。

境内林で見られる鳥類

平野部における屈指の鳥類生息地でもあり、カケス・アカハラ・ルリビタキ・アオゲラなど約六十種類が繁殖あるいは中継・越冬の地として利用している。

コゲラ・ヒゲラ・アオゲラ・メジロ・ホオジロ・アオジ・ヒバリ・イカル・アカハラ・ルリビタキ・キジバト・カルガモ・シメ・ヤマシギ・チゴモズ・キセキレイ・シジウカラ・ジョウビタキ・コジュウケイ・サンショウクイ・コガラ・ミヤマホオジロ・カシラダカ・アオバズク・マヒワ・ヒヨドリ・オナガ・カケス・ヒガラ・ビンズイ・アカゲラ・トラツグミ・キクイタダキ・ムクドリ・サンコウチョウ・カツコウ・シロハラ・ウゲイスなど

豊かな自然の雑木林の中を、野鳥がさえずり飛び交うのが見られるかもしない。



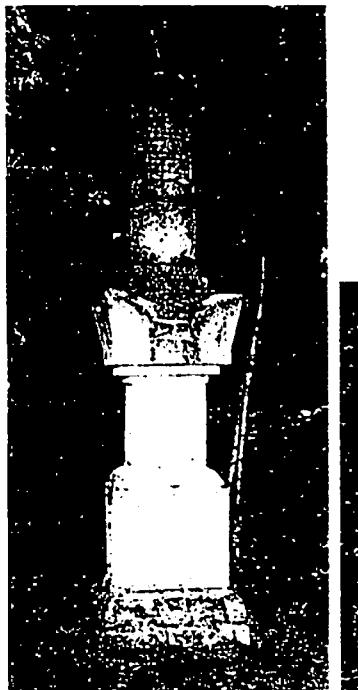
廣大な境内林



地名の発祥である「野火止塚」



在原業平をしのぶ「業平塚」



見性院の宝塚印塔



「島原の乱」供養塔

「血印の塔」の建立人々

寛永年中に起つた「島原の乱」から200年が経過した文久三年（1863）に、義姓になつた士卒や庶民のため、松平家が遠忌供養を行つた際、三河国吉田藩の家臣大鷲左源太が建立したものである。

見性院の宝塚印塔

見性院は武田信玄の二女で、武田家の武将の穴山信忠の正室である。法名を見性院殿高峯妙顯大姉といつ。

夫、穴山信君〔梅雪〕の死後、梅雪と懇意であった家康に養われ、のちに秀忠の子、幸松丸〔保科正之〕と母お静の方を引取、養育した。

見性院が家康や鉄山禪師と懇意であったことから、のちに建立されたものである。



小畠助左衛門の墓

安松金右衛門の墓

増田長盛の墓

播磨 日田長盛 の 墓

豊臣秀吉に仕えた豊臣五奉行の一人。

文禄・慶長の役により大和郡山城主となり、20万石を受領したが、閔ヶ原の戦いに敗れ、所領没収のうえ、高野山に追放された。のちに岩槻城主の高力忠房に預けられたが自刃した。岩槻の平林寺に葬られ、ここに改葬された。

安松金右衛門の墓

野火止用水開削の労働者。

慶長六年〔1601〕播磨に生まれ、正保元年〔1644〕に松平信綱に仕官した。

算術や高度な土木技術などにより、玉川上水・野火止用水を竣工させた。

また、川越藩の新田開発・検地実施の責任者として活躍し、のちに郡代を務めた。

小白田助左衛門の墓

川越藩家老。

丹波国生まれ、信綱に仕え300石取の徒大頭から奏者番へ、さらには600石取の家老職となり、川越藩の藩政を充実させた。野火止用水開削時の家老でもあり、武藏野開発に意を用いたためにここに葬られた。

参考資料

平林寺

[株] ももたま正版舎

平林寺ガイドブック

野火止用水をあるく

新座市教育総務部生涯学習課

新座ガイドブック

新座市産業観光協会

〈「りせ」とは醉猪・平田篤胤の齶嶋の夫人・おりせにちなんで名付けました〉

◎12月21日（日）、会員限定バスツアー「新選組を日野、調布に訪ねる」

次回史跡めぐりは、明年のNHK大河ドラマのテーマ「新選組」に合わせた会員限定バスツアーです。

土方歳三資料館、土方歳三の墓、高幡不動（奥殿・大日殿拝觀）、近藤勇生家跡などを訪れます。

ご案内は水上清常理事。参加費は昼食ともで6千円。

会員限定ですが、会員ご家族、お友達はご参加いただけます。ぜひ、ご参加くださいますよう、お願い申上げます。

◎明けて1月3日（土）は、恒例新年七福神めぐり。今回は深川です

ご案内は今年に統いて西村功幹事です。こちらの方もお忘れなく。

◎郷土研究会の「N P O」化にご理解をお願いいたします

◇「N P O」とはなにですか

<Non=非 Profit=利益 Organization=組織>の略で、「エヌピーオー」といいます。「特定非営利活動法人」の意味です。「社団法人」や「財団法人」の小型版とお考えください。これまでには「任意団体」でしたが、それを「法人」にするということです。

◇なぜ、いま、「N P O」にするのですか

これまで、郷土研究会は皆様お楽しみの史跡めぐりをメイン行事にはしておりましたが、市民の方々にも広く、郷土の歴史に興味をもっていただこうと「歴史講演会」や「歴史講座」なども行なってまいりました。

単なる「趣味の団体」ではありません。

そして、最近、市民のために郷土に関心をもっていただこうとする各種の団体があちこちにできてきてています。

このままでは、永年、いささかでも「社会貢献」をしてきたという本家が他の団体にとって変わられることも想像されます。越谷市郷土研究会は、公益を主とした団体ですよという旗をしっかりと掲げておきたい、それがN P O化の一番の目的です。

また、文化財の管理（たとえば大間野の中村家）の管理のお仕事を引受けたいという計画もありますが、このためにはN P O（法人）になっていることが前提になります。今後に発展性のある仕事であり、それ自体「社会貢献」であることに乗り出す条件なのです。

◇会員個人にとって変化はありますか

年会費も今までどおり。上記の文化財の仕事も希望者にしていただくことで、強制ではありません。史跡めぐりは、これまでどおり続けます。

史跡めぐり
歴史講座 参加申込み

上記の越谷市郷土研究会主催行事に参加を申込みます。

住 所 _____

氏 名 _____

電話番号 _____

お一人・一枚ずつ、お書きください。ハガキによるお申込みは不要となります。

越谷市郷土研究会

第三回史跡めぐりのご案内 〔新選組を日野・調布に訪ねる〕

NHK大河ドラマの前に見ておきましょう！

旧日野宿本陣佐藤道場、土方歳三資料館、石田寺（土方歳三の墓）、高幡不動尊、龍源寺（近藤勇の墓）、近藤勇生家跡などを訪ねます

◇日時 平成十五年十二月二十一日（日） ◇集合 JR南越谷駅前・埼玉りそな銀行南越谷支店前 午前7時20分 ◇参加費600円（バス・昼食は高幡不動尊門前の開運そば・拌観料などを含む） ◇案内者 常任理事・水上清 ◇参加申込みは12月8日（月）までにハガキに住所・氏名・電話番号を明記し、〒343-0045 越谷市下間久里1168-1 越谷スライハイツA-310 西村功へ。 ◇家族・お友達の参加可 ◇同じバスご希望の場合は同じハガキでお申込みのこと ◇申込み多数の場合は抽選とすることもあります ☆参加決定は12月9日（火）とし確定後ご連絡します（参加費は当日持参） ☆キャンセルは非常に迷惑ですのでご容赦ください

連絡先 西村978-12927 宮川975-9139◎越谷市郷土研究会